

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年9月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1170500381
法人名	株式会社メディカル・ケア
事業所名	グループホーム フローラ白岡西
所在地	〒349-0205 埼玉県南埼玉郡白岡町西10-13-9 (電話) 0480-92-4466

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年8月22日

【情報提供票より】平成20年8月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤	15人, 非常勤 14人, 常勤換算 13.9人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨耐火造り
	3階建ての1階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,000 円	その他の経費(月額)	28,150円 + 実費	
敷金	有(150,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 900円				

(4) 利用者の概要(平成20年8月11日現在)

利用者人数	24 名	男性	4 名	女性	20 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.5 歳	最低	50 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	フローラ太田小通りクリニック、小島歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、裏手に古木の桜並木が続いており、四季を楽しめる環境の中にある。門を入ると芝生と木のベンチがあり、利用者や職員の安らぎの場所となっている。庭では地域の方から分けてもらったナスやスイカが育てられ、地域に溶け込む努力が見られる。3階建て3ユニットのホームは、利用者の状態により、居間や廊下などの装飾や家具の配置を工夫しており、外出の難しい利用者には季節を感じられるように朝顔のつるを居室のベランダに伸ばしたりと利用者に対する思いが感じられる。食事風景も職員と利用者の楽しそうな会話や、好きなビールやワインをたしなむ利用者の姿が見受けられ印象的である。医療においては認知症専門医の往診があり、利用者だけではなく、家族、管理者、職員の大きな力になっている。子供110番の設立も予定されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題について、出来るところから取り組んでいる。理念はわかりやすく短い言葉で事業所独自のものをつくりあげており、地域の同業者との交流も互いの施設を相互訪問したり、電話で近況を報告しあったりしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価に取り組み、記入も職員が手分けして行い自己評価を作成している。職員は評価の意義を理解しており、日々のケアの向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3か月に1度の運営推進会議開催を目指しており、自治会長、民生委員、役所、家族、利用者、職員が参加をして、活発な意見交換が行われている。事業所の運営や、災害対策などの検討課題についても次回の会議で経過報告がされる予定である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会のたびに健康状態、近況などを話し合っている。家族が何でも話せるような雰囲気作りや関係を築くように努め、家族から出された意見や要望に対しても納得してもらえるように説明や報告を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人がボランティアで来てくれたり、畑で採れた野菜をいただいたりしており、自治会にも加入して行事に出来るだけ参加をするように努めている。子供110番の設置をする計画もある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体の理念を柱に置きながら、職員間で話し合い、短い言葉でわかりやすい事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時などにケアの振り返りとして、職員間で理念を確認し共有している。また、短い言葉の中に含まれる意味合いを考えながら、利用者に向き合う態度や言葉かけなどに活かす努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに、近隣の住民がボランティアで手伝いに来てくれたり、畑で採れた野菜をいただいて献立に加えたり、近所の子供が遊びに来てくれたりしている。また、自治会の夏祭りにも参加するなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、記入も職員の手で行われている。職員は評価の意義を理解しており、前回の見直しなどについても出来るところから改善に向けた努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度の会議開催を目指しており、自治会長、民生委員、役所、家族、利用者、職員が参加をして活発な意見交換がなされている。事業所の運営や災害対策などの検討課題についても次回の会議で経過報告がされる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営や現場の状況などを直接窓口に出向いて報告したり、担当課側からも入居についての問い合わせがあったりと、共に関係づくりに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会のたびに利用者の健康状態や近況などについて話し合っている。状況によっては電話で話し合うこともあり、月に1度はお便りにて、ホームの近況や職員の異動に関するお知らせなどを送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から何でも話せるような雰囲気作りとともに関係を築くように努めている。家族から出された様々な意見や要望については、納得していただけるように説明や報告を行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、利用者のダメージを防ぐように周りの職員で支援している。新しい職員に関しては、馴染みの職員が研修をしながら、利用者には不安を与えないように努めており、家族には写真入りのホーム便りで紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営母体の研修が2か月に1度行われている。研修を受けてきた職員は内容を報告し、全職員で共有している。利用者の状態に応じて内部で独自の勉強会や、研修も行っている。また、希望者は外部の研修に参加することもある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流がある。電話で連絡を取り合ったり、相互訪問をして、お互いのケアや管理について情報交換をしながら質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族が見学することからはじめ、本人の見学や自宅に出向くことも行いながら話を聞いている。また、役所からの紹介では、役所の職員と本人が見学を訪れるなど、できるだけ見学の機会を増やしながらか馴染めるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活上での知恵を教えてもらうことが多く、お互い協働しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。職員は利用者から学ぶことも多く、教えてもらう喜びを感じている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いがそれぞれ異なることを理解し、全員に同じことをするのではなく、利用者の状態や日々のケアで感じたことを把握しながら本人本位に検討している。また、入居時や面会時に家族からも生活歴などを聞き、本人の意向の把握に努めている。</p>		
把握に努めている。					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々のかかわりの中で本人の思いを汲み取るように努力し、職員同士で確認し合い、アセスメント、モニタリングを行って介護計画を作成している。家族や関係者の意見を求めることもある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間内でも本人に変化のあった時は見直しを行っている。常にアセスメント表やモニタリング表を活用しながら、いつでも計画を見直せるような体制がとられている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎支援や、お墓参りに同行するなど、その時の利用者や家族等の状況に応じて、出来る限りの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、事業所のかかりつけ医の内科医と歯科医の往診がある。認知症専門のドクターの往診もあり、希望者には受診の支援もしている。また、利用者や家族の希望するかかりつけの病院の看護師とも連絡を取り合いながら支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態の変化があった時は、家族と常に連絡をとり、方向性を確認し合っている。かかりつけの内科医の指示を受け、家族と何度も相談をしながら、事業所が対応できる最大のケアについて説明をし、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や入浴時の声かけなど、ケアするにあたって本人の尊厳を損ねないように支援をしている。記録や個人情報などについても保管場所を徹底し、取り扱いに注意をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションなど大まかな1日の流れはあるが、利用者の希望があれば出来るだけ意に添うように努めている。また、利用者の趣味を取り入れ、それぞれのペースで楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者で一括購入しているが、ユニットごとに職員が作り味付けをしている。利用者も調理に参加し、後片付けは希望者が楽しみながら行っている。また、誕生日会などは外食に行ったり、出前を楽しむこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後から好きな時間帯で入浴できるように支援している。入浴拒否のある利用者には、かかりつけの医師の助言などをもらいながら本人に声かけの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けなど自然に役割が決まっており、利用者の張り合いになっている。絵の好きな利用者の影響で、今まで興味のなかった利用者が絵を始めるなど、お互いの喜びになるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近所の桜並木を散歩したり、農作業中の地域の方の畑を見学させてもらったりしながら外出を楽しんでいる。また、ホームの庭でくつろいだり、職員が用事で外出する際に出来るだけ一緒に出かけられるようにするなど、外出の機会を増やす努力をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は施錠されていない。利用者の状態により、各ユニットごとの出入り口は施錠されている時間帯もある。		今後、子供110番の設置が予定されているということもあり、門の開閉の時間帯の工夫や、ユニットごとの施錠についても、今一度、職員間で話し合い、ケアの仕方や見守りの工夫をしていくことが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いでの訓練を実施している。その際に避難経路のアドバイスをもらい職員全員で確認し合っているが、地域の人々の協力を得るまでには至っていない。		災害時などに協力が得られるように、地域の人々に参加を呼びかけていくことが望まれる。また、食料、水分の備蓄、地震や洪水などの自然災害について職員間で話し合い、連絡網のマニュアルなど、さらに細かい研修・訓練を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材仕入れ業者の栄養士により献立が作成されており、栄養のバランスは摂れている。透析の利用者については、食事及び水分量などの摂取状況を記録しており、その他の利用者については職員がおおよその把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下は、ユニットごとに利用者の状態や個性で飾りつけがされている。台所からは居間の全体が見渡せるようになっており、職員が食事を準備する際には、音や匂いなどが感じられるようなつくりになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の趣味の物や、使い慣れた馴染みの椅子や箆笥などが置かれ、それぞれの個性に合った居室となっている。仏壇を置いてある部屋もあり、利用者の要望を取り入れた居室づくりになっている。		